

信じられないことばかりあるの。もしかしたら。もしかしたら。そうなのかしら——昭和を代表するアイドルが歌ったのは、宇宙から来た不思議な男性との恋物語の歌だった。目と目が合うだけで、手を取り合うだけで心が通じ、眠いなあとかお腹すいたなあとか思うだけでベッドや食事が用意され、最終的には男性の宇宙船に乗って遠く夢の宇宙へ連れ立ってゆく……平成も終焉を迎えようという今日、誰も体験していないであろう空想のラブストーリー。そんな歌が昭和の隆盛期に流行していたのだ。

「まさかキャンペーンをするのに、オーブントースターやホットプレートを持っていく時代が来るとはねえ」

僕がレンタルしたこの新型アウトランダーPHEVも、きっと彼女たちの歌が流行していた昭和時代の人々からすれば、誰も体験できないような空想の車になるだろう。電気駆動するだけでなく、自ら発電し、その電力を使って電化製品を好きな場所で使える——誰が想像しただろうか。

「PHEVが更に進化したっていう話を聞いたけど」

「そうだそうだ。最近この19型が発売されて父さんも欲しいと思っていたんだが、従来と何が違うって言うんだ？」

「え、えーっと……それはね、」

製品がどれだけ便利で使いやすく、人間をより良くサポートするようになくても、それを使いこなせなくては本当の良さにはたどり着けない。僕もまだ乗り始めて数時間というところで、ピンク・レディ世代の両親の質問にネットで仕入れた程度の知識じゃうまく答えられない。こんなとき、どうしたら……！

「お任せください」

「あ、あなたは！」

「北海道三菱小樽店・店長！」

いつの間にか車内に出現したのは、北海道三菱小樽店の店長だ。

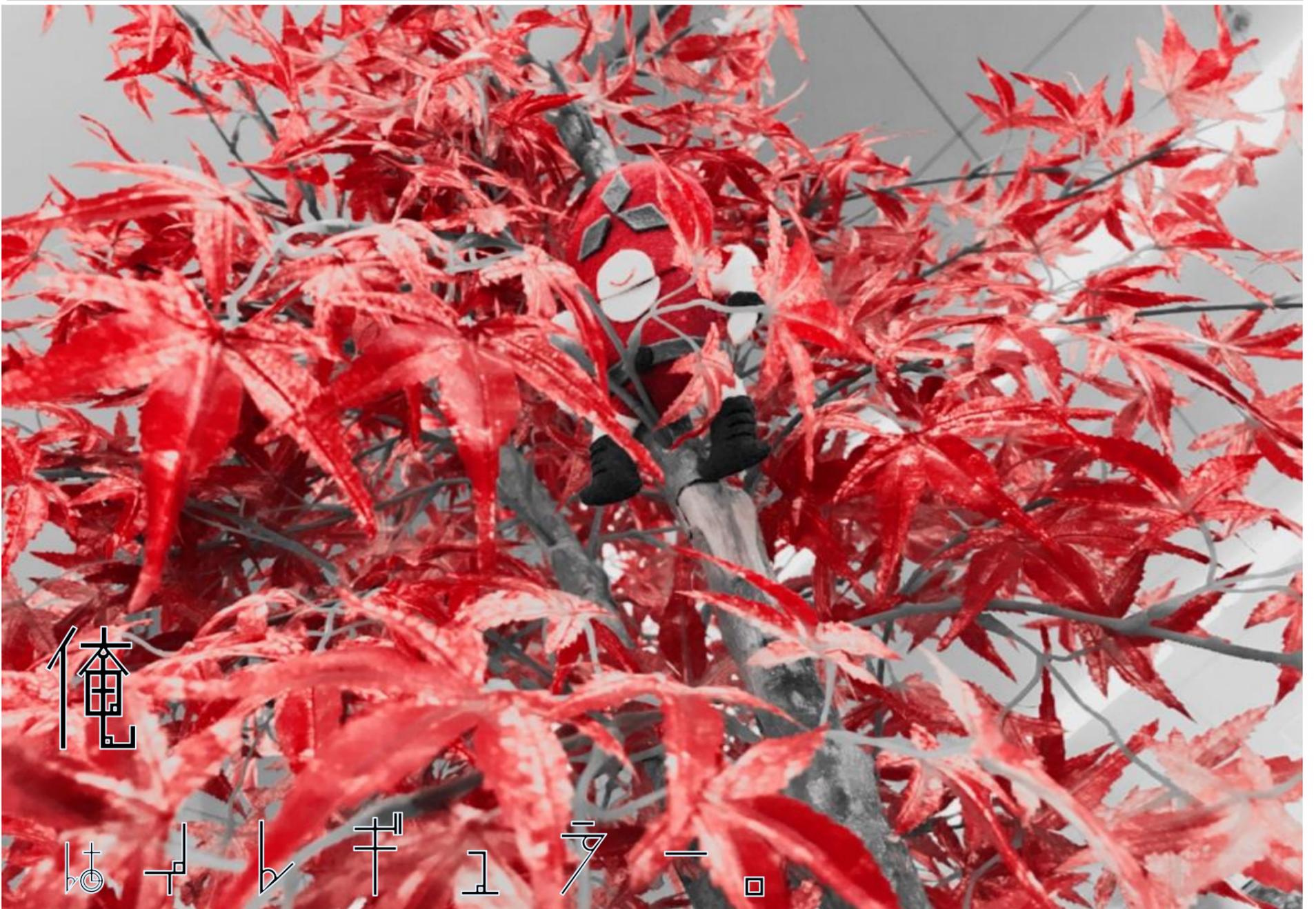
「19型アウトランダーPHEVの特徴・改良点・オススメポイント、その全てを小樽店精鋭部隊が今日皆様にご説明し、実際にご覧に入れますよう……小樽店の決算フェアの会場で！」

「うわー！」

その時突如オレンジ色の光が僕らを包んだ。眩しさに目を閉じ、気づいたときには、僕たちは小樽店に到着していた。

「試乗では非体験してください……夢のような乗り心地を……」

そして脳内に直接届くメッセージ本当に信じられないことばかりある。平成最後のPHEVは、何やらすごいみたいだ。それならいいだろう。僕も心を決め、右奥窓際の席に着いた。どうせ買うなら新しいのがほしい。それに近頃少し、普通の車に飽きたところだしね。



俺

はーりーぎゅー。